

Cowboy Poetry 考察その1： モンタナ・カウボーイ・スピーチ

山口 豊

1. Cowboy Poetry とは

日本ではまだほとんど知られていないが、アメリカ合衆国では近年になって Cowboy Poetry という詩のジャンルが確立されている。詩集も数多く出版され、インターネット上にもたくさんのカウボーイ詩関連のホームページを見つけることができる。ごくあたりまえのカウボーイたちが、牧場での生活や、日々の出来事、考えていることなどを詩にしているのだ。そして家庭で詩の朗読を楽しんだり、または外で詩の朗読会を開いたりしている。

1985年からは毎年、Western Folklife Center のディレクターである Hal Cannon を中心とした民俗学者たちによって、Cowboy Poetry Gathering というカウボーイ詩の全国大会がネバダ州の Elko で行われている。アメリカ西部のあちこちで、牧場に暮らしながら個々に詩を書いていたカウボーイたちが、その第一回目の大会で初めて顔を合わせた時の様子は、まるで離ればなれになっていた家族が再会をはたした時のようであったという (Widmark, 1997)。

私の Cowboy Poetry との初めて出会いは (その出会いがなければ今でも Cowboy Poetry の存在を知らなかっただろう)、アメリカに留学中の1994年頃、ミネアポリスの書店で偶然見つけた、上記の Hal Cannon が編集した2冊目のカウボーイ詩集 *New cowboy poetry: a contemporary gathering* (1990) だった。特に詩を読むのが好きというわけではなかったが、この詩集は表紙のかわいいいカウボーイの絵が気に入って購入した。夜に一人のカウボーイが石の上に腰かけ、ナイフで何かを削っているそのかわらで犬が寝ている絵で、"Red Ranch Dog" というタイトルがついている。洋書は表紙の絵につられて買うことが多い。したがって失敗することも多いのだが、これはペーパーバックのポケットサイズの詩集で、それまで読んだことのあるどんな詩集よりも読みやすく感じ、Cowboy Poetry というジャンルに興味を持つきっかけになった。

この詩集には現代の29人のカウボーイ詩人による74遍の詩がおさめられている。詩のタイプも主題も様々であるが、どの詩にもカウボーイの生活

や、カウボーイの視点でとらえた世界が描かれており、カウボーイとはどういった人たちなのか、またカウボーイ詩とはどういったものなのかを感じることができる。いずれ手に入れていろいろ読んでもらいたいと思うが、今回ここで、この詩集の中からひとつ紹介したいと思う。

2. ア・ピース・オブ・カウボーイ・ポエトリー

Brands

Mike Logan

Me an' Slim was movin' heifers
Down Highway 33.
When this Cadillac with New York plates
Pulls up beside o' me.

The lady driver, she leans out
An' waves to me an' him.
Then purty soon she's drivin' 'long
An' talkin' with ol' Slim.

She asks 'im 'bout the cowboy life
An' 'bout his hoss an' such.
An' why them bulls is wearin' stars.
It's plain she don't know much.

"Well, ma'am, them stars is brands," Slim says.
"They tell who owns the cow."
She asks him, "Are there many brands?"
That lady's done it now!

Ol' Slim don't usu'lly talk too much,
But he gets plumb wound up!
Ya' get 'im talkin' cattle brands
He's eager as a pup!

"Why, ma'am, you bet!! There's quite a few!!"

O! Slim builds to the task.

"Could you just name a few of them?"

I hear that lady ask.

"Shoot, ma'am, I'd be right happy to!!"

He takes a mighty breath.

That lady's in grave danger

O' plump bein' talked to death!

O! Slim, he starts off kind o' slow

Then steams right on ahead.

An' best as I can recollect

These brands is ones he said.

"There's Broken Hearts and Lazy K's

An Muleshoes an' Walkin' A's.

There's Runnin' W's, Tumblin' T's

An' Bar B Q's an' Di'mond 3's.

"There's X Bar M's an' Rockin' R's

An' Turkey Tracks an' Circle Stars.

There's Y Bar 5's an' Rafter P's

An' Triangles an' Slash N C's.

"There's Broken Arrows, Risin' Suns

An' Tomahawks an' 1 Bar 1's.

There's Quarter Moons an' Backward E's

An' I O U's an' Twin Pine Trees.

"There's Six Shooters an' Z Bar N's

An' Question Marks an' Number 10's.

There's Pick an' Shovels, Double G's

An' Quarter Circle Crazy B's.

"There's Candlesticks an' Open A's
An' Arrowheads an' Hanging J's.
There's Anchors an' a Triple Cross
An' even some shaped like a Hoss.

"There's Pitchers, Teapots an' there's Cups
An' Wineglasses an' 7 Ups.
There's Cloverleafs an' Mission Bells
An' Eyeglasses an' Schoolboy L's.

"There's Top Hats an' there's Buttonhooks
An' lots that's hard to read in books.
There's Box F's an the 4 T 4
An', by gum, ma'am, there's plenty more."

Ol' Slim, he's soundin' windbroke,
His breath's a comin' rough.
His face is turnin' beet red.
This namin' brands is rough!!

"You mean you haven't named them all?"
That lady cain't but stare.
"Why, I ain't hardly started, ma'am.
I just run out o' air!"

作者の Mike Logan はカンザス州の牧場の生まれであるが、彼自身はカウボーイではない。30年程前にモンタナ州に住むようになってからは職業的には教師であり、また自然や動物などを撮る写真家である。そして彼は長年土地のカウボーイたちと交流があり、牧場の生活や古い時代の牧畜業についての詩を書き、モンタナ州のあちこちの牧場に呼ばれては詩の朗読をしているということだ。

この詩では語り手と Old Slim の姿を通して、モンタナのカウボーイたちのようすが、牧場を通るハイウェイでの一場面の中でユーモラスに描かれている。「牛の(焼き印) ことを語らせたなら誰にも負けない」というカウボーイ

としての誇りが、ふだんは無口なのだがこの時ばかりはと、息を切らしながら一生懸命に、リズムカルに、土地のことばそのままでニューヨーク・ナンバーのキャデラックでやってきた女性に語る Old Slim の姿に表れている。

牛の焼き印にはたくさん種類があるということを知って驚き、「いくつか名前をあげてくださらない」と、別にどうしても聞きたいというわけでもないニューヨークから来た女性に対して、Old Slim がはるかに必要以上の量の情報を提供してしまう。Grice (1975) の「会話の原則 (Conversational Principle)」における「量の格率 (Maxims of Quantity)」の違反である。これによって、カウボーイと都会の女性間にコミュニケーションがうまく成立していない様子が描かれている。だが Old Slim のことをせめてはいけなない。なぜなら Grice の言う「原則」とは、人々の間に暗黙の内にある会話の際のルールを説明しているのであって、ことばの使い方の制限を提案するものではないからだ。そしてことばとは実際、相手あつてのコミュニケーションの手段として使われるのが全てではなく、このように自分を表現するため、または様々な意味での自分の満足のために使われるということもあるのである。Old Slim にとっては、相手がどれくらいの量の情報を求めているかなどどうでもよく、自分のカウボーイとしての誇りをぞんぶんに発揮し、「牛の焼き印」についての全てを語らずにいられないのである。そして「まだあるの？」と当惑するニューヨークから来た女性に言う、「なんだって、まだまだこれがらでねが」、と。

3. モンタナ・カウボーイ・スピーチ

さて、この詩ではモンタナのカウボーイたちの日常のことばが、ニューヨークの女性の標準英語とのコントラストがあつて特におもしろいのだが、作者によってそのままの発音に近いかたちで文字におこされており、彼らが実際どのように話すのかを感じ取ることができる。文学作品などによく見られる、標準英語とは発音、文法、語彙の面で異なることばは一般に「文学方言」(literary dialect) と呼ばれ、作者がそういった方言を表すために工夫した綴り字は "respelled words" と呼ばれる。標準的な英語にしか接したことのない人ならば、このような respelled words にとまどいを覚えることだろう。例えば、マーク・トウェーンの *The Adventures of Huckleberry Finn* での黒人奴隷ジムのことばなどは、このような respelled words の典型的なものだ。一例をあげる。第4章で、ジムがあやしい毛球を使った占いで、ハックに彼の飲んだくれの父親がいったい何をしようとしているのか、お告げをし

ている場面だ：

“Yo’ ole father doan’ know, yit, what he’s a-gwayne to do. Sometimes he spec he’ll go ‘way, en den agin he spec he’ stay. De bes’ way is to res’ easy en let de ole man take his own way. . . .”

(標準英語訳)

“Your old father doesn’t know, yet, what he’s going to do. Sometimes he expects he’ll go away, and then again he expects he’ll stay. The best way is to rest easy and let the old man take his own way. . . .”

また、本稿で紹介した詩をはじめ、Cowboy Poetry の多くも方言をそのまま “respelled” されたかたちで書かれており、それがこのジャンルを特徴づけるものの一つとなっている。

方言というものはあまり文字に表されないが、それは近代教育の普及のおかげでほとんどの人が標準的なことばの書き方を習うようになったからだろう。それでも方言は文字におこさないものではない。日本にも方言で書かれた詩はたくさんあるし（高木恭造、宮沢賢治など）、人々は意識的に、または無意識的に方言を文字に表すことがある。たまに田舎（青森市）に帰って、食事の用意はしてあるのだが母はどこかに出かけており、「サスミれいぞうこ」（刺身が冷蔵庫に入っている）などとテーブルの上にメモがあるのを見つけると衝撃的な喜びを感じる。こういったことばによって私の生涯たったひとつの、心の故郷が健在であるのを知るからである。この詩を読むアメリカの読者の多くも、詩中のカウボーイたちのことばにそういった喜びを感じたり、心の故郷に遭遇するのかもしれない。

さて、私はモンタナでカウボーイたちのことばを現地調査したわけでもないので、この詩中のカウボーイたちのことばを、モンタナ州のまたはモンタナ州のカウボーイの方言として一般化するのに科学的な根拠はない。だが、すべての音・語・句・文を忠実に記述しなければならない言語学者とは違うが、文学者などが作品中に用いる文学方言は、通常その作品の舞台となる地域や社会（階層）に典型的な音・語・句・文を登場人物に使わせたものである（畑中他、1983）と考えられるので、この詩中のことばに、典型的なモンタナのカウボーイのことばの特徴を観察できるものと仮定し、彼らのことばについて言語学的な分析を行う。ただ、この詩中での限られたテキストに

おいてできる、観察や一般化には限界があるということに注意しておきたい。私としては、ここでの分析をこの詩中の非標準的な英語を理解するのに役立てていただければ幸いである。

また、ある特定のグループの人々のことばの特徴を捉えようとする時には、音声・文法・語彙の3局面での分析を普通行うが、ここでは語彙の面では牛の焼き印の名前がたくさんみられるということがカウボーイ的であるといった以外の特徴は見られないので、その局面での分析は行わない。この詩中で観察される、モンタナ州のカウボーイたちのことばの、音声面での特徴と文法面での特徴は次のとおりである；

音声面での特徴

- (1) 語尾の ~ing が ~in' と発音される。
- (2) and, old, of の語尾子音の消失。
- (3) あいまい母音の消失。

along → 'long, about → 'bout, usually → usu'lly
diamond → di'mond

- (4) 二重母音化。 can't → cain't

※その他に pretty が purty になったりと [r] 音に関しての変化が見られる。無声子音の直後の [r] 音が難しいものと思われる。

文法面での特徴

- (1) 一般動詞に3単現の "s" はつくが、do に対しての does は存在しない。
- (2) 数の不一致。be 動詞 is が複数の主語に対しても用いられる。
- (3) them を these の代わりに用いる。
- (4) 初期現代英語にしばしば見られる be + a - ~ing 形。
意味は今日の be + ~ing 形と同じ。

この観察から、モンタナのカウボーイたちのことばにおいては、音の消失、文法面での単純化、古い用法の残存などがおもな特徴であると言える。ただこういったことばの特徴はアメリカ南部や黒人英語などによくみられ、また、一般にアメリカにおける都会に住まない、肉体労働をする、あまり高学歴でない人々のことばにもみられるので、これらが特にモンタナの特徴であると

は言えないだろう。一般にアメリカ合衆国においては、西部に行けば行くほど地理的な方言の境界線が引きにくいようである。これは比較的新しく開拓された土地で、アメリカ国内のより古い様々な地域から人々が流入してきたのが原因と思われる（畑中、他、1983）。つまり、ここで観察された方言の特徴はモンタナの（地理的）と捉えるより、カウボーイ的（社会階層的）と捉えるべきだろう。また、ここではモンタナのカウボーイのことばを他の地域のカウボーイのことばと比較していないし、モンタナの他の職業の人々のことばとも比較していないので、純粋な意味でのモンタナのカウボーイのことばの特徴を捉えるのには限界があるが、それは今後の課題としたい。

4. さいごに

近代化を背景に急速に変化したり、失われているカウボーイたちの生活や文化、またカウボーイの存在そのものが、最近のこういった Cowboy Poetry を通してアメリカの人々に見直されてきているようである。それは、彼らの多くが失ってしまった心の故郷に対する郷愁のようでもあるし、アメリカという国の歴史の原点に対する郷愁でもあろう。都会に住み慣れた人々の心にもきっと、自然の厳しさと直面したカウボーイなどの開拓民たちの魂が残っているのかも知れない。ことばの面では、ここで紹介したカウボーイ詩にみられるような方言を、なつかしく感じるのだろう。そしてカウボーイたちは主張するのである、自分たちのことばを通して、カウボーイが、自分たちのカウボーイとしてのアイデンティティーが健在であることを。

本稿ではカウボーイ詩というジャンルについての簡単な紹介と、ひとつのカウボーイ詩を題材に、その中に見られるカウボーイ・スピーチの分析を試みるにとどまったが、より多くの人々に Cowboy Poetry について興味をもっていただき、また知っていただければ幸いである。私自身、このジャンルについてはまだまだ知らないことが多いし、研究をするとしたら具体的にどのようなことをすべきか、またはどのような方法ですべきかよくわからない状態である。そういった面での意見、提案などがあつたらありがたい。さいごに Cowboy Poetry をまず手軽に知っていただくために、インターネット上の参考になる Cowboy Poetry 関連のホーム・ページをいくつか、そして詩集その他（CD、カセットテープなど）が日本国内の書店では手に入らないので、インターネットで検索、購入できるアメリカ国内の書店のホーム・ページもひとつあげておく。

Cowboy Poetry 関連ホーム・ページ

- Cowboy Poetry On-Line
<<http://www.clantongang.com/oldwest/trade.htm>>
- Cowboy Poets Society
<<http://www.cyberhighway.net/~rudy/cbyptsoc.htm>>
- The Cowboy Poets Society
<<http://www.westfolk.org/p.home.html>>
- Western Folklife Center <<http://www.westfolk.org/>>

書店ホーム・ページ

- amazon.com <<http://www.amazon.com>>

参考図書

- 畑中孝實他. 1983. 『英語のバリエーション』 南雲堂.
- Grice, H. 1975. Logic and conversation. In Cole and Morgan, eds., *Syntax and Semantics, III: Speech Acts*, 41-58. Academic Press.
- Cannon, H., eds. 1990. *New cowboy poetry: a contemporary gathering*, Utah: Gibbs Smith.
- Widmark, A. H., eds. 1995. *Between earth and sky: poets of the cowboy West*, NY: W.W. Norton & Company, Inc..

(岩手大学教育学部英語教育専修)